TADOKU JUNIOR　イギリスの昔話　★★★☆☆ ふつう　743語

Titty Mouse and Tatty Mouse

ティティネズミとタッティネズミ

Joseph Jacobs（1890年の本）　原文そのまま　朗読：Joy Chan

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　なかよしのネズミ、ティティとタッティ。ティティがいなくなって、タッティがなきだすと、こしかけも、ほうきも、戸も……みんながつぎつぎにふしぎなことをはじめます。



Titty Mouse and Tatty Mouse both lived in a house,

Titty Mouse went *a* leasing and Tatty Mouse went *a* leasing,

So they both went *a* leasing.

Titty Mouse leased *an* ear of corn, and Tatty Mouse leased *an* ear of corn,

So they both leased *an* ear of corn.

Titty Mouse made *a* pudding, and Tatty Mouse made *a* pudding,

So they both made *a* pudding.

And Tatty Mouse put her pudding into the pot to boil,

But when Titty went to put hers in, the pot tumbled over, and scalded her to death.

Then Tatty sat down and wept; then a three-legged stool said: “Tatty, why do you weep?” “Titty's dead,” said Tatty, “and so I weep;” “then,” said the stool, “I'll hop,” so the stool hopped.

Then a broom in the corner of the room said, “Stool, why do you hop?” “Oh!” said the stool, “Titty's dead, and Tatty weeps, and so I hop;” “then,” said the broom, “I'll sweep,” so the broom began to sweep.

“Then,” said the door, “Broom, why do you sweep?” “Oh!” said the broom, “Titty's dead, and Tatty weeps, and the stool hops, and so I sweep;” “Then,” said the door, “I'll jar,” so the door jarred.

“Then,” said the window, “Door, why do you jar?” “Oh!” said the door, “Titty's dead, and Tatty weeps, and the stool hops, and the broom sweeps, and so I jar.”

“Then,” said the window, “I'll creak,” so the window creaked. Now there was an old form outside the house, and when the window creaked, the form said: “Window, why do you creak?” “Oh!” said the window, “Titty's dead, and Tatty weeps, and the stool hops, and the broom sweeps, the door jars, and so I creak.”

“Then,” said the old form, “I'll run round the house;” then the old form ran round the house. Now there was a fine large walnut-tree growing by the cottage, and the tree said to the form: “Form, why do you run round the house?” “Oh!” said the form, “Titty's dead, and Tatty weeps, and the stool hops, and the broom sweeps, the door jars, and the window creaks, and so I run round the house.”

“Then,” said the walnut-tree, “I'll shed my leaves,” so the walnut-tree shed all its beautiful green leaves. Now there was a little bird perched on one of the boughs of the tree, and when all the leaves fell, it said: “Walnut-tree, why do you shed your leaves?” “Oh!” said the tree, “Titty's dead, and Tatty weeps, the stool

hops, and the broom sweeps, the door jars, and the window creaks, the old form runs round the house, and so I shed my leaves."

"Then," said the little bird, "I'll moult all my feathers," so he moulted all his pretty feathers. Now there was a little girl walking below, carrying a jug of milk for her brothers and sisters' supper, and when she saw the poor little bird moult all its feathers, she said: "Little bird, why do you moult all your feathers?" "Oh!" said the little bird, "Titty's dead, and Tatty weeps, the stool hops, and the broom sweeps, the door jars, and the window creaks, the old form runs round the house, the walnut-tree sheds its leaves, and so I moult all my feathers."

"Then," said the little girl, "I'll spill the milk," so she dropt the pitcher and spilt the milk. Now there was an old man just by on the top of a ladder thatching a rick, and when he saw the little girl spill the milk, he said: "Little girl, what do you mean by spilling the milk, your little brothers and sisters must go without their supper." Then said the little girl: "Titty's dead, and Tatty weeps, the stool hops, and the broom sweeps, the door jars, and the window creaks, the old form runs round the house, the walnut-tree sheds all its leaves, the little bird moults all its feathers, and so I spill the milk."

"Oh!" said the old man, "then I'll tumble off the ladder and break my neck," so he tumbled off the ladder and broke his neck; and when the old man broke his neck, the great walnut-tree fell down with a crash, and upset the old form and house, and the house falling knocked the window out, and the window knocked the door down, and the door upset the broom, and the broom upset the stool, and poor little Tatty Mouse was buried beneath the ruins.

ティティネズミとタッティネズミは、2ひきいっしょに1けんの家にすんでいました。

ティティネズミは落ちぼひろいに行き、タッティネズミも落ちぼひろいに行きました。

それで2ひきとも、落ちぼひろいに行きました。

ティティネズミはむぎのほを1本ひろい、タッティネズミもむぎのほを1本ひろいました。

それで2ひきとも、むぎのほを1本ずつひろいました。

ティティネズミはプディングを作り、タッティネズミもプディングを作りました。

それで2ひきとも、プディングを作りました。

タッティネズミは、自分のプディングをなべに入れてにました。

ところがティティが自分のを入れようとすると、なべがひっくりかえって、ティティはあついおゆをかぶって死んでしまいました。

そこでタッティはすわりこんでなきました。すると3本足のこしかけが言いました。「タッティ、どうしてないているの？」「ティティが死んじゃったの」とタッティは言いました。「だからなくの。」「それなら」とこしかけは言いました。「ぼくははねよう。」そしてこしかけは、ぴょんぴょんはねました。

すると、へやのすみのほうきが言いました。「こしかけさん、どうしてはねているの？」「ああ！」とこしかけは言いました。「ティティは死んじゃった、タッティはなく、だからぼくははねるのさ。」「それなら」とほうきは言いました。「わたしははこう。」そしてほうきは、はきはじめました。

「それなら」と戸が言いました。「ほうきさん、どうしてはいているの？」「ああ！」とほうきは言いました。「ティティは死んじゃった、タッティはなく、こしかけははねる、だからわたしははくの。」「それなら」と戸は言いました。「ぼくはガタガタ鳴ろう。」そして戸はガタガタ鳴りました。

「それなら」とまどが言いました。「戸さん、どうしてガタガタ鳴っているの？」「ああ！」と戸は言いました。「ティティは死んじゃった、タッティはなく、こしかけははねる、ほうきははく、だからぼくはガタガタ鳴るのさ。」

「それなら」とまどは言いました。「わたしはギシギシいおう。」そしてまどはギシギシいいました。さて、家の外には古いベンチがありました。まどがギシギシいうと、ベンチが言いました。「まどさん、どうしてギシギシいっているの？」「ああ！」とまどは言いました。「ティティは死んじゃった、タッティはなく、こしかけははねる、ほうきははく、戸はガタガタ鳴る、だからわたしはギシギシいうの。」

「それなら」と古いベンチは言いました。「わしは家のまわりを走ろう。」そして古いベンチは、家のまわりを走りました。さて、その小さな家のそばには、大きなりっぱなクルミの木が生えていました。クルミの木はベンチに言いました。「ベンチさん、どうして家のまわりを走っているの？」「ああ！」とベンチは言いました。「ティティは死んじゃった、タッティはなく、こしかけははねる、ほうきははく、戸はガタガタ鳴る、まどはギシギシいう、だからわしは家のまわりを走るのさ。」

「それなら」とクルミの木は言いました。「わたしは葉っぱを落としましょう。」そしてクルミの木は、美しい緑の葉っぱをぜんぶ落としました。さて、その木のえだの1本に、小鳥が1羽とまっていました。葉っぱがぜんぶ落ちると、小鳥は言いました。「クルミの木さん、どうして葉っぱを落とすの？」「ああ！」と木は言いました。「ティティは死んじゃった、タッティはなく、こしかけははねる、ほうきははく、戸はガタガタ鳴る、まどはギシギシいう、古いベンチは家のまわりを走る、だからわたしは葉っぱを落とすの。」

「それなら」と小鳥は言いました。「ぼくは羽をぜんぶぬこう。」そして小鳥は、きれいな羽をぜんぶぬきました。さて、その下を、小さな女の子が、弟や妹たちの夕ごはんのミルクの入ったつぼを持って歩いていました。かわいそうな小鳥が羽をぜんぶぬくのを見て、女の子は言いました。「小鳥さん、どうして羽をぜんぶぬくの？」「ああ！」と小鳥は言いました。「ティティは死んじゃった、タッティはなく、こしかけははねる、ほうきははく、戸はガタガタ鳴る、まどはギシギシいう、古いベンチは家のまわりを走る、クルミの木は葉っぱを落とす、だからぼくは羽をぜんぶぬくのさ。」

「それなら」と女の子は言いました。「わたしはミルクをこぼしましょう。」そして女の子は、つぼを落としてミルクをこぼしました。さて、すぐそばで、おじいさんがはしごのてっぺんにのぼって、わらの山の屋根をふいていました。女の子がミルクをこぼすのを見て、おじいさんは言いました。「おじょうちゃん、ミルクをこぼしたりして、どういうつもりだい。小さな弟や妹たちが夕ごはんぬきになってしまうよ。」すると女の子は言いました。「ティティは死んじゃった、タッティはなく、こしかけははねる、ほうきははく、戸はガタガタ鳴る、まどはギシギシいう、古いベンチは家のまわりを走る、クルミの木は葉っぱを落とす、小鳥は羽をぬく、だからわたしはミルクをこぼすの。」

「なんと！」とおじいさんは言いました。「それなら、わしははしごから落ちて首のほねをおろう。」そしておじいさんは、はしごから落ちて首のほねをおってしまいました。おじいさんが首のほねをおると、大きなクルミの木がドシーンとたおれて、古いベンチと家をひっくりかえしました。家がたおれてまどがはずれ、まどは戸をたおし、戸はほうきをひっくりかえし、ほうきはこしかけをひっくりかえし、かわいそうなタッティネズミは、くずれた家の下じきになってしまいました。

たんご と クイズ ティティネズミとタッティネズミ

Mouse ネズミ	**pudding** プディング	**pot** なべ
stool こしかけ	**broom** ほうき	**walnut-tree** クルミの木
feathers 羽	**milk** ミルク	

Q1 タッティがないていると、さいしょに話しかけたのはだれ？

① ほうき　② 3本足のこしかけ　③ まど

Q2 クルミの木は、どうしましたか？

① 葉っぱをぜんぶ落とした　② 花をさかせた　③ 実を落とした

Q3 女の子は何をこぼしましたか？

① 水　② スープ　③ ミルク

こたえ

Q1 ②　さいしょに話しかけたのは3本足のこしかけでした。わけを聞くと、こしかけはぴょんぴょんはねだしました。

Q2 ①　クルミの木は「葉っぱを落としましょう」と言って、美しい緑の葉っぱをぜんぶ落としました。

Q3 ③　女の子は、弟や妹たちの夕ごはんのミルクの入ったつぼを落として、ミルクをこぼしてしまいました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #7439（Joseph Jacobs、1890年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Joy Chan（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。